

第2期中期目標期間における
年度計画の自己点検・評価に係る実施要領

平成22年10月8日
大学評価専門委員会
平成25年9月5日
一部改正

本学は、第2期の中期目標・中期計画を確実に達成するため、毎年度、年度計画の実施状況について、以下の要領により自己点検・評価を行う。

自己点検・評価にあたっては、「第2期中期目標期間における自己点検・評価体制に関する基本方針（平成22年9月14日大学評価委員会決定）」に基づき、評価作業の負担軽減を図るとともに、自己点検・評価の結果を次年度の改善に着実に反映させることとする。

1. 実施方法（概略）

- (1) 年度計画の実施主体（理事、関係委員会、事務局等）は、年度の間及び終了時に年度計画の実施状況について、自己点検・評価を行う。
- (2) 上記（1）の実施にあたっては、「中期目標・中期計画進捗管理システム」（以下「システム」という。）を活用する。
- (3) 企画課及び大学評価情報室は、年度計画全体の実施状況を確認し、必要に応じて助言等を行うとともに、それらの結果を大学評価専門委員会に報告する。
- (4) 大学評価専門委員会は、上記（3）の報告内容等を基に年度計画の実施状況に関する審議を行い、中期目標・中期計画の達成に向けた指摘・助言等を行う。

2. 実施主体が行う自己点検・評価

(1) 年度の間に行う年度計画の実施状況確認

- 1) 10月1日時点における年度計画の実施状況を確認し、その内容を「システム」の「自己点検・評価（中間）」欄に記載する。

2) 記載内容

- i) 年度計画の実施状況及び今後の予定、見通し
[成果指標（年度計画）の取組及び結果に基づき具体的に記載]
- ii) 成果指標（年度計画）の取組以外に実施している内容
- iii) 生じている問題点

※記載にあたっては、簡潔・明瞭に記載することとし、複数の類似した取組については表形式にまとめ根拠資料として添付する等、第三者に分かりやすい表現に努める。

3) 自己評定（4段階）

上記で確認した実施状況について、年度末までの予定を見込んで、「自己点検・評価（中間）の自己評定」欄に以下の4段階の評定を付す。取組や成果に関する情報、第三者からの評価などを広く収集し記述を充実させ、対応する根拠資料も添付することで、より積極的で適切

な自己評価を行う。自己評価をⅣとする場合は、「自己点検・評価（中間）」欄に具体的な根拠を記載する。

なお、単年度ごとの自己評価は、最終的な目標である中期目標・中期計画を達成するための進捗管理が目的であり、この評価をもって中期目標・中期計画の達成を図るものではない。

- | |
|---------------------|
| Ⅳ. 年度計画を上回って実施している |
| Ⅲ. 年度計画を十分に実施している |
| Ⅱ. 年度計画を十分には実施していない |
| Ⅰ. 年度計画を実施していない |

※評価「Ⅳ」について（例）

- ① 年度計画を達成し、かつ年度計画以外の取組を実施したことで評価「Ⅳ」とするのではなく、さらに一段上のレベルの取組であることを第三者に示せる際に評価「Ⅳ」とする。その際は、評価「Ⅳ」の根拠となる十分な記述と具体的な成果を第三者にわかりやすく示す。
- ② 各種補助金を獲得した後の取組による教育・研究の充実や質の向上、体制の整備による効果など、具体的な成果を評価「Ⅳ」の根拠とすることができる。

4) 根拠資料

年度計画の実施状況を示す根拠となる資料があれば、添付する。（以後、年度終了時まで随時添付が可能）

冊子・会議資料等については、関係部分を抜粋するなど、第三者に分かるよう明示する。取組の記述内容と根拠資料との対応関係を整理し、第三者にわかりやすい工夫を行う。

例：記述内容に「〇〇の取組を行い△△の成果を得た。（資料1）」と記載した際は、根拠資料のファイル名を「（資料1）〇〇の取組について」とした上で添付。

（2）年度終了時に行う年度計画の実施状況の自己点検・評価

- 1) 3月31日時点における年度計画の実施状況を確認し、その内容を「システム」の「自己点検・評価（年度末）」欄に記載する。

2) 記載内容

i) 年度計画の実施状況及び成果

[成果指標（年度計画）の取組及び結果に基づき具体的な成果まで記載]

記載例：「〇〇の取組を実施した結果、△△の成果が得られている。」

ii) 成果指標（年度計画）の取組以外に実施した内容及び成果

iii) 明らかになった課題

iv) 中期計画の達成状況及び成果（3年及び6年終了時に実施）

[成果指標（中期計画）の取組及び結果に基づき具体的に記載]

※記載にあたっては、簡潔・明瞭に記載することとし、複数の類似した取組については表形式にまとめ根拠資料として添付する等、第三者に分かりやすい表現に努める。

3) 自己評価（4段階）

「自己点検・評価（年度末）の自己評価」欄に以下の4段階の評価を付す。取組や成果に

関する情報、第三者からの評価などを広く収集し記述を充実させ、対応する根拠資料も添付することで、より積極的で適切な自己評価を行う。自己評価をIVとする場合は、「自己点検・評価（年度末）」欄に具体的な根拠を記載する。

なお、単年度ごとの自己評価は、最終的な目標である中期目標・中期計画を達成するための進捗管理が目的であり、この評価をもって中期目標・中期計画の達成を図るものではない。

- | |
|----------------------|
| IV. 年度計画を上回って実施している |
| III. 年度計画を十分に実施している |
| II. 年度計画を十分には実施していない |
| I. 年度計画を実施していない |

※評価「IV」について（例）

- ① 年度計画を達成し、かつ年度計画以外の取組を実施したことで評価「IV」とするのではなく、さらに一段上のレベルの取組であることを第三者に示せる際に評価「IV」とする。その際は、評価「IV」の根拠となる十分な記述と具体的な成果を第三者にわかりやすく示す。
- ② 各種補助金を獲得した後の取組による教育・研究の充実や質の向上、体制の整備による効果など、具体的な成果を評価「IV」の根拠とすることができる。

4) 根拠資料

年度計画の実施状況を示す根拠資料を添付する。

冊子・会議資料等については、関係部分を抜粋するなど、第三者に分かるよう明示する。取組の記述内容と根拠資料との対応関係を整理し、第三者にわかりやすい工夫を行う。

例：記述内容に「〇〇の取組を行い△△の成果を得た。（資料1）」と記載した際は、根拠資料のファイル名を「（資料1）〇〇の取組について」とした上で添付。

3. 大学評価専門委員会が行う確認・審議

- (1) 実施状況（中間）の報告を受け、必要に応じて中期計画、年度計画の達成に向けた課題の指摘や助言等を行う。
- (2) 上記（1）に加え、大学評価専門委員会が特に必要と認める項目については、ヒアリング等を行い定期的に実施状況について審議する。
- (3) 大学評価専門委員会での審議等の結果については、次年度計画にフィードバックできるよう企画専門委員会等に意見を提出することとする。
- (4) 年度終了時の年度計画の実施状況について自己点検・評価を行い、年度計画ごとに4段階の評価を付すとともに、年度計画全体の総括を行う。

4. その他

- (1) 本実施要領による自己点検・評価の結果は、国立大学法人評価委員会に提出する実績報告書の根拠とする。
- (2) 「システム」に入力された内容は、学内に公開する。